



学習参観、懇談会、PTA総会 お世話になりました！

4月26日（金）に行われた学習参観、学級懇談会、PTA総会には、お忙しい中、来校いただきありがとうございました。お子さんの様子、学級の雰囲気はいかがだったでしょうか。新年度になり、わずか3週間ほどの短い期間の中で、大きな声で教科書を音読する姿や進んで自分の考えを発表する姿に成長を感じられたのではないのでしょうか。

また、学級懇談会では、担任より学校でのお子さんの様子や保護者の方からの家庭での様子などが話し合われたことだと思います。今後も家庭との連携を密にしていきたいと思っておりますので、何かありましたら、ご遠慮なく学校へ相談をしてください。

学級懇談会後には、平成31年度のPTA総会が食堂で開催され、平成30年度の事業報告、会計報告、監査報告、平成31年度の本部役員選出、活動方針、事業計画、予算案等、すべてが滞りなく承認されました。

PTA総会資料の1ページ目に令和元年度の教育構想を載せさせていただきました。今年度は目指す児童像の中に「ひとりになれる ひとつになれる」ということを南小学校みんなのスローガンとしました。これは、玉村町の教育行政方針にもある『自立』『共生』に加え、自律・協同ということを子供たちに分かりやすくしたものです。また、昨年度までは目指す教師像としていたものを学校運営はすべての教職員で行っていくという考えから目指す教職員像とし、「組織で仕事、熱意と使命感」をスローガンとしました。そして、今年度も「豊かな心をそだてます」「確かな学力を身につけます」「健やかな体を育みます」「地域と共にある学校をつくります」の4つの柱で教育活動を進めていきます。その中でも「学校運営」に欠かせないものが一番下にあります「地域と共にある学校をつくります」であると思っています。「地域と共にある学校づくり」を進めることにより、それが「豊かな心や健やかな体の育成」「確かな学力の向上」へつながっていくと思っています。PTA会長様をはじめ、役員の皆様、そしてすべての保護者の皆様や地域の皆様には、いろいろとお世話になることが多いと思いますが、全職員一丸となって、子どもたちの健やかな成長に向けて取り組んでまいりますので、どうぞ皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



平成から令和へ（5月7日の全校集会より）

5月1日から、元号が平成から令和に改元されました。この令和は、日本最古の歌集「万葉集」の「梅花の歌三十二首」の序文の文言を出典としたといわれています。また、安倍首相は新元号が発表された時の談話の中で「令和には人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」と言っていました。これは、みなさんの学校生活の中でも言えることだと思います。一人一人が様々な活動を通して心を磨き、心を寄せ合う中で、南小学校の伝統や文化が築いていけるのだと思います。

また、安倍首相は、twitterの中で、この令和には「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい」という願いを込めたと強調していました。みなさんも学校生活の中で、楽しいことばかりではなく、時には辛いことや苦しいこともあるかもしれませんが、しかし、そういったことを一つ一つ乗り越えて、自分自身の心や身体を成長させていくことです。

そのためには、一人一人が明日への希望と共に、将来に対する夢をしっかりと持つことが大切です。夢があるとそれがいろいろなエネルギーになり、元気に頑張ろうという気持ちにもなります。夢があるとやるべきことがわかり、行動が活発になります。毎日が楽しくなります。そして、何よりも夢を持っている人の表情は輝いています。

校長先生は、新しい令和という時代の中で、南小学校の一人一人が輝いてほしいと思っています。そして、夢を持ち、その夢を大きく咲かせるために何をしたらいいかを考え、目標をもってがんばってほしいと思います。



【小学生の勉強法】子どものモチベーションを上げる関わり方

小学校、それははじめて「学び」というものを本格的に教わる場であり、お子様にとっては毎日が大事な授業の連続となります。この時期は、後の中学・高校・大学へと続く「土台」とも言える時期であり、ここで学んだ事が後に活かされていくとても大事な時期なのです。では、しっかりと学んでもらうために、どのように学習を促せば良いのでしょうか。今回は、小学生の学習についてのアドバイスを伝えさせていただきます。

<上から下ではなく横並びで>

よくある促し方に「勉強しなさい」「宿題やるまでテレビ見ちゃだめ」といった「上から下」へのトップダウン方式のやり方がありますが、これはあまり得策とは言えません。子供も大人も同じで、上からガミガミと言われるだけでは、なぜやらなければいけないのかが納得できませんし、なによりモチベーションが上がりにくいです。そこで視点を「子供の上に自分がいる」というものではなく、「子供と寄り添いながらいる」というものにシフトしてみませんか？具体的な言葉としては「お母さんと一緒に宿題やってみようか」「お母さんもお掃除頑張るから、〇〇ちゃんも宿題頑張って競争しようか」など、「一緒に取り組む」というものです。そうすれば子供も「なんで自分ばかり」という理不尽な印象が払拭され、動きやすくなります。また、自身も資格などの勉強を始めるのも良いかもしれません。そうすれば「お母さんも勉強頑張ろうっ！」というように「親の背中」を見せることが出来、それを見た子供は「自分もやろうかな」という気持ちに向かいやすくなります。

また、難関大学合格者がよく語るような「リビング学習」というのがこのやり方には最適かもしれませんね。やはり自分の部屋にこもられてしまったり、中で何をしているのかが見えにくくなりますから、親の目の届く範囲で勉強をさせるのが最も効率的でしょう。子供も「お母さんが見てくれているから頑張ろう」という励ましにも似た気持ちを覚えることでしょう。

<日常生活とのリンク>

勉強はなぜしなければならないのか？これは子どもの時に非常に多くの子供が勉強に対して抱く感情ですね。しかし、そういった気持ちも大人になってみると、「もっと勉強しておけばよかった」という後悔に変わることが多いようです。それくらい大人になると日常生活と勉強がリンクしていることを痛感するものです。それをしっかり子供が分かるように伝えてあげることが非常に重要になってきます。例えば、算数は人間が生きていく上で非常に基本的なものであり、計算と生活は切っても切れない関係にあります。たとえ計算機を使おうとも、計算するための式が立てられなければ、計算機だって無用の長物です。国語も新聞を読んだり、報告書を書いたりするのに国語力が重要になってきますし、なにより生活は言葉なくして成り立ちません。社会だって、世の中の流れ・動きをしっかりとらえていくために覚えておかなければならない知識が詰まっています。そう考えていくと、小学校で学習する内容は大人の世界で使う知識ばかりなのです。より分かりやすく見せるために、家計簿を見せながら算数の授業に当てはめてみても面白いかもしれません。新聞を使って漢字や社会の勉強を一緒にしてもよいでしょう。また、新聞に載っているエネルギー問題や温暖化と理科の授業を合わせるのもいいですね。子供は「なぜ？」が解消されるとモチベーションアップしやすいものです。是非それをトライしてみてください。